

## 地域計画(案)

策定年月日	令和7年(2025年)3月14日
更新年月日	令和8年(2026年) 月 日 (第1回)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	苓北町 (43531)
地域名 (地域内農業集落名)	坂瀬川鶴地区 (鶴)

### 1 地域における農業の将来の在り方

#### (1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	28.81 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	25.19 ha
② 田の面積	17.37 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	10.25 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	2.48 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0.11 ha
(参考)区域内における75才以上の農業者の農地面積の合計	9.32 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	9.32 ha
(備考) 遊休農地面積: 1.19ha	

#### (2) 地域農業の現状及び課題

<p>本町は年々人口が減少し、高齢化が進んでいる。当地区では、中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積は10.1haである一方、75歳以上で後継者未定または不明の農業者による耕作面積は9.9haとなっており、両者はほぼ均衡している状況にあるが、中心経営体においても、高齢化の進行と担い手不足が深刻化しており、担い手の確保が喫緊の課題である。水田においては、水稻・WCSなどの作付けが主流であり、農地の有効活用が求められる。また、個人所有の機械が多く、共同利用が進んでいないため、鶴地区機械利用組合への作業委託を推進する必要がある。今後は、龍の里ふるさと会、鶴地区機械利用組合を中心に、農地利用を持続可能にしながら地域活性化を図ることが重要である。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### (3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

<p>農業者の高齢化に伴う担い手不足を補うため、龍の里ふるさと会を中心に機械の共同利用やオペレーターを育成しながら、効率的な集落営農を進めていく。また、担い手への農地集積・集約を段階的に進め、農作業の効率化を進めていく。</p> <p>さらに、地域内で収穫された米については専用ラベルを活用し、ブランド化を推進することで付加価値を高めていく。加えて、耕作放棄地の解消に取り組むとともに、高収益が期待できる作物の試験栽培を行いながら、地域の特性に適した作物の栽培を進めていく。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地バンクへの貸付けを進めつつ、担い手(認定農業者)などへの農地集積・集約化を基本としつつ、担い手の農作業に支障がない範囲で農業を担う者により農地利用を進める。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	39	%	将来の目標とする集積率
			50
			%
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
地域内の農業を担う営農組織を設立し、農地の集約化を進めていく。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
農地バンクを活用して、担い手(認定農業者)や新規就農者等への農地集積、集約化を進めていく。
(2)農地中間管理機構の活用方法
関係機関と連携し、農地中間管理事業の活用による農地集積を進めていく。
(3)基盤整備事業への取組
担い手(認定農業者)等のニーズを踏まえ検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
担い手(認定農業者)等に農地を集積・集約し、地域の農地を守りつつ若手のリーダー育成を進めていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
地域内で農作業の効率化、遊休農地の発生を防止するため、関係機関と連携しながら、低コスト組合等による農作業受託を必要に応じ進めていく。

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

- ①鳥獣害の被害が拡大しないよう防止柵等を設置するとともに、目撃情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制の構築を進めていく。併せて地域内外から捕獲人材の確保・育成を進めていく。
- ②有機農業、減農薬、減肥料に現在取り組んでいるため、継続して行っていく。
- ③ドローンによる農薬散布等を進めていく。
- ⑤⑦中山間地域等直接支払制度等を利用し、農用地や水路等の適切な維持管理を進めていく。
- ⑩米については専用ラベルを活用し、ブランド化を推進することで付加価値を高めていく。
- ⑩高収益が期待できる作物の試験栽培を行いながら、地域の特性に適した作物の栽培を進めていく。
- ⑩黒染のため池・龍の里観音・風力発電等を活用した地域づくりに取り組んでいく。
- ⑩鶴地区で収穫祭を実施していく。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和16年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
	別紙1のとおり		ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	37経営体		28.59 ha	0.00 ha		27.25 ha	0.00 ha		

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--